

# 共同土木が都内最大級の中間処理施設を完成

来月稼働

共同土木（埼玉県上尾市）の埼玉、千葉に続く中間処理施設である東京工場が完成、20日に工場見学会と開設記念式典を開催した。来月から稼働を開始する。同工場は東



岡林社長

京都心から10<sup>キロ</sup>圏内の立地で、9千平方<sup>メートル</sup>と都内最大級の規模。照明をLED照明にするなど環境面に配慮しているほか、年内に他に先駆けて「ナンバー認証システム」を導入することなどが特徴となっている。

## 建設廃棄物の再資源化

向上はゼネコンなどで課題となっているが、これには大規模な敷地が必要



完成した東京工場

となることから、従来は都心から離れた工場で処理せざるを得なかった。

新工場は東京駅から9<sup>キロ</sup>メートルの距離にあり、こうした再資源化ニーズ

に効果的な対応が可能だ。新工場は9千平方<sup>メートル</sup>の敷地内に混合廃棄物処理ラインのほか、各種破砕機などを揃え、産業廃棄物の処理再生を行う。再資源化率の向上とコスト削減を図るため、高度選別が可能な精選設備を設置した。収集運搬の効率化のため24時間体制で受け入れ、搬入業者を待たせないよう3基のスケールを設置している。

全証明をLED証明として省エネを図るほか、年内には太陽光発電シス

テム50<sup>キロワット</sup>を設置することも計画している。また、工場入口に設置されたカメラで入退場する車両ナンバーを読み取り、自動撮影した荷姿の写真や計量データなどとともにコンピューターで管理、その情報を顧客にメールで送信することもできる。

と語った。

記念式典で同社の岡林靖幸社長は、「東京工場を持ったことでお客様に協力できる部分がこれまで以上に増えた」など